

富士フイルム

**日本印刷学会 31 年度表彰で研究発表奨励賞を受賞**  
新聞用無処理 CTP プレート『SUPERIA ZN-II』の合紙レス化技術などを評価

2019 年 3 月 13 日

富士フイルム株式会社(社長:助野健児)は、一般社団法人日本印刷学会の 31 年度表彰において、「新型新聞用無処理 CTP プレートの開発」で「研究発表奨励賞」を受賞しました。2 月 22 日には、東京・中央区の日本印刷会館で開催された日本印刷学会通常総会において表彰式が行われ、受賞者に賞状と盾が授与されました。

「研究発表奨励賞」は、同学会の春期・秋期研究発表会での優秀発表者に贈られます。富士フイルムは 2015 年に現像液やガムの廃液などの処理工程が一切不要という省資源を実現した新聞用完全無処理 CTP プレート「SUPERIA ZN」を発売しました。その優れた性能を継承しながら、新聞用無処理 CTP のさらなる環境負荷低減および刷りやすさ向上に貢献できるよう研究開発をすすめ、下記 2 点を実現し「SUPERIA ZN-II」を 2018 年に発売しました。今回の受賞は、本研究発表に対して贈られたものです。

**●合紙レス化**

従来の新聞用無処理 CTP プレートでは、輸送・積み替え時のキズ発生や、セッター給版時の多重給版を防止する目的で、プレート間に合紙を挿入していましたが、さらなる環境負荷低減のため、新たにプレート裏面にマット剤を敷設する「MBW(Mattness Backside Wrapping Technology)技術」を採用することで、合紙を不要にしました。

**●エッジ汚れ防止効果とエッジ描画性の両立**

プレートのエッジ部に付着したインキが紙に転写してしまうという、新聞印刷に特有の「エッジ汚れ」を防止するため、従来の新聞用無処理 CTP プレートではエッジ部に親水化処理を行なっていました。そのため、エッジ部において描画できない領域が生じていました。そこで、エッジ汚れの防止とエッジ部での画像形成を両立するため、感光層全体に親水化剤を含ませ、機上現像によってエッジ部へ親水化剤を移動する「DDS(Drag Delivery System Technology)技術」を採用することで、エッジ汚れ防止効果とエッジ描画性の両立を達成しました。

**【研究発表奨励賞 受賞者】**

R&amp;D 統括本部 グラフィックシステム研究所 副所長 光本知由

R&amp;D 統括本部 グラフィックシステム研究所 嶋中修知、難波優介、宮川侑也、渡邊駿平

R&amp;D 統括本部 解析技術センター 研究マネージャー 森淳一

**【受賞者コメント】**

本研究発表は、国内初の新聞用無処理 CTP プレート『SUPERIA ZN』の後継品種として 2018 年 7 月に発表した『SUPERIA ZN-II』に搭載した技術内容に関する発表であり、その技術を評価いただき、大変光栄です。『SUPERIA ZN-II』は、お客さまから要望の多かった「合紙レス化」「エッジ描画性の向上」「エッジ汚れ防止効果の向上」を達成しており、新聞印刷のさらなる無処理化に貢献できる商品であると考えております。今後も市場のニーズをタイムリーに商品開発に反映し、市場に貢献できる商品の提供に努めてまいります。(宮川侑也)

また、富士フィルムグループの富士ゼロックス株式会社(社長:玉井光一)が、同表彰において『紙の価値を解明する「メディアの認知研究」』で「技術奨励賞」を受賞したことを併せてお知らせします。紙メディアの本質的な価値を解明するための認知実験による研究成果が紙メディアの価値訴求に貢献するものとして評価され、今回の受賞につながりました。



後列左から、森淳一、嶋中修知、渡邊駿平、難波優介

前列左から、宮川侑也、柴田博仁(富士ゼロックス株式会社)、大村賢悟(富士ゼロックス株式会社)

※富士ゼロックスは「技術奨励賞」を受賞(件名:紙の価値を解明する「メディアの認知研究」)

富士フィルムグループは、これからもお客さまの課題解決に寄与するべく、印刷技術にイノベーションをもたらす研究開発に積極的に取り組み、印刷産業の発展に貢献してまいります。

本件に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

●富士フィルムグローバルグラフィックシステムズ株式会社 広報宣伝部

所在地:〒106-0031 東京都港区西麻布 2-26-30 富士フィルム西麻布ビル

TEL:03-6419-0380

FAX:03-6419-9896

インターネットホームページアドレス:<http://ffgs.fujifilm.co.jp>